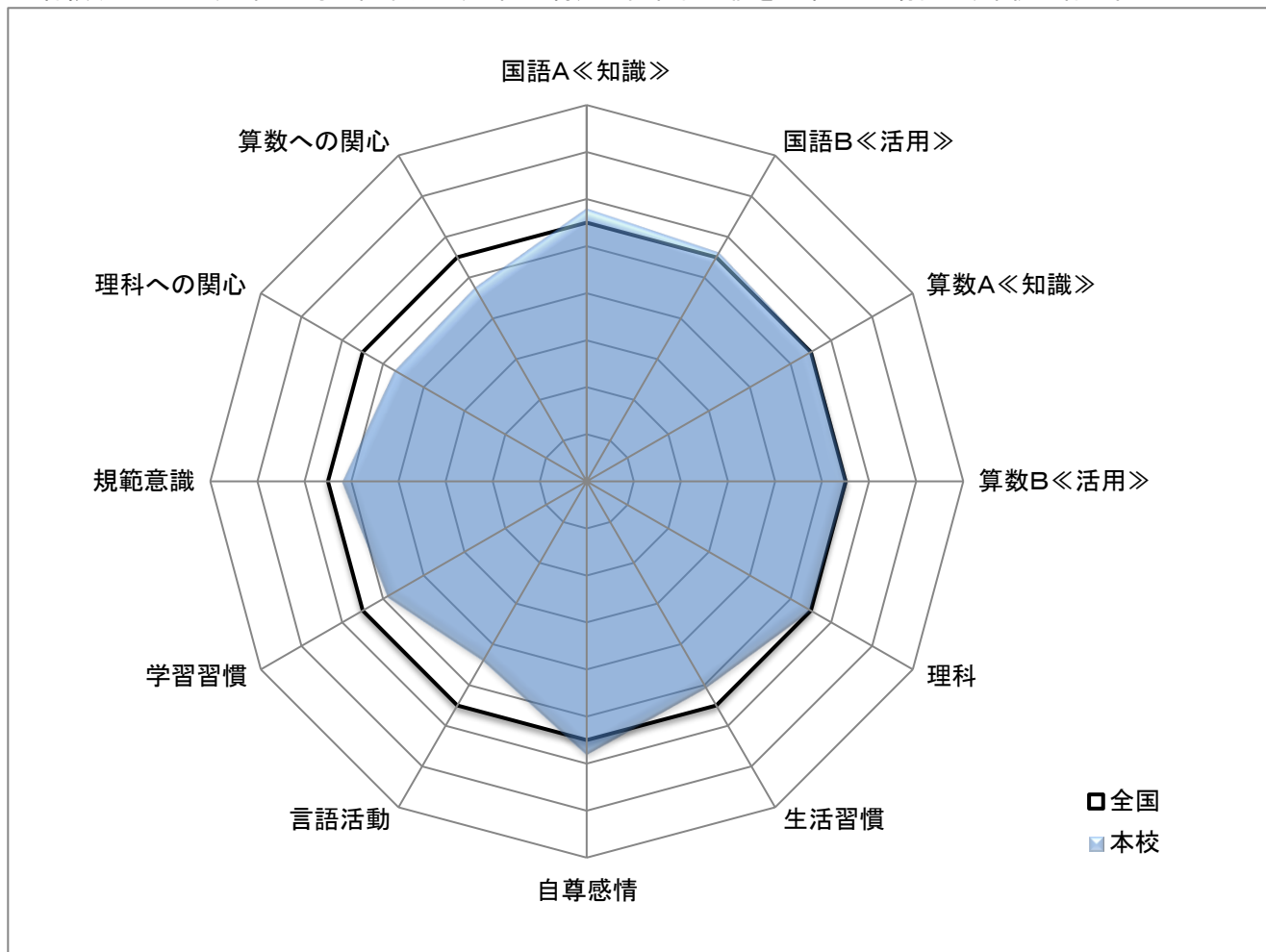


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語Aでは「書くこと」の平均正答率が全国平均より9.3ポイント上回る。国語Bでは「読むこと」の平均正答率が全国平均より7.7ポイント上回る。
算数Aでは「図形」の平均正答率が全国平均より5.2ポイント上回る。
算数B、理科においては全ての領域、区分等において全国平均並であった。
言語活動においては「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の設問で「はい」と回答した児童の割合は全国平均より約20ポイント下回る。
以上の現状から、本校の児童は受け身の姿勢で学習に取り組んでいることがわかる。また児童の「行動」や「思い」と学力調査の結果にずれが生じていることがわかる。
学校・家庭・地域と連携し、児童に学びの機会を十分に保証していくことによって、本校の児童の伸びが期待できると考える。

《授業改善のポイント》

国語については一定の力が付いていると考えられる。しかし、言語活動に対する肯定的な回答率が低い原因として、児童に十分な語彙力が身に付いていないことや、言語環境が整備されていないことが挙げられる。国語科に限らず、全教科の指導をとおして、辞書や話形を用いた学習の充実や、自分の考えをうまく伝えることができるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する機会、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする機会を設ける。
算数については、基礎・基本の確実な習得を図りつつ、基礎的な学習内容を活用する力を高めるために、児童の習熟度に応じた課題解決型の授業を展開する。また、東京ベーシックドリルの実施や補習教室の計画的な実施により、個別の支援を充実させる。
理科については主にA区分「エネルギー」に関する調査項目で平均を大きく下回っている。仮説・実験・検証の方法等の見直しを図り、科学的な思考力や表現力、観察・実験の技能の向上に努める。

《チャートの特徴》

「国語A B」「算数A B」「理科」のいずれの調査においても全国平均と等しいまたは上回っている。しかし、いずれの項目においても東京都の平均より下回っていることから、継続的に授業改善を進めていく必要がある。
「算数への関心」「理科への関心」「言語活動」の項目で全国平均より下回っている。
「学習習慣」「生活習慣」「規範意識」の項目で全国平均より下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

個人面談で、一人一人の学力について詳しく説明する機会を設け、学力についての関心を高めている。
Eライブラリアドバンス家庭学習サービスや東京ベーシックドリルについて周知を徹底し、家庭での活用を促していく。
生活習慣の改善や家庭学習に対する意欲を高めるために、「江戸川っ子家庭ルール週間」を活用し、家庭への啓発活動を行っていく。調査結果を分析し、本校の現状や課題について家庭に発信していく。